

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第1回 余裕深度処分対象廃棄体分科会 (F9SC) 議事録

1. 日時 2004年12月7日 (火) 14:00~16:00
 2. 場所 (社) 日本原子力学会会議室
 3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 阿部 (主査), 河西 (副主査), 明里 (幹事), 大浦, 熊野, 子安, 坂下,
櫻井, 関沢, 高橋, 中山, 西村, 古谷, 山田 (14名)
(代理出席委員) 本山 (柏木代理) (1名)
(欠席委員) (なし)
(常時参加者) 伊藤, 岩田, 久野, 佐野, 田中, 田村 (6名)
(傍聴者) 高橋 (1名)
(事務局) 阿久津
 4. 配付資料
F9SC1-1 標準委員会の活動基本方針
F9SC1-2 原子燃料サイクル専門部会の活動方針 (抜粋)
F9SC1-3 原子燃料サイクル分野の標準案件総括表 (2004年8月9日現在)
F9SC1-4 標準委員会 専門部会運営通則 (抜粋)
F9SC1-5 余裕深度処分の概要
F9SC1-6 余裕深度処分の制度化に関するこれまでの経緯
F9SC1-7 余裕深度処分対象廃棄体の製作方法の標準化について
- 参考資料
- F9SC1-参考1 余裕深度処分対象廃棄体分科会 委員一覧

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、15名の委員中、14名の委員及び1名の代理委員の出席があり、決議に必要な委員数（10名以上）を満足している旨の報告があった。また、伊藤 千浩 氏（(財)電力中央研究所）、岩田 順一 氏（内閣府 原子力安全委員会事務局）、久野 悟 氏（日本原子力発電(株)）、佐野 一哉 氏（核燃料サイクル開発機構）、田中 雄司 氏（日本原燃(株)）及び田村 明男 氏（関西電力(株)）より発言希望者として、並びに高橋 宏幸 氏（日本原子力発電(株)）より傍聴者としての届出が事務局を通じて部会長に出されており、部会長がこれを了承している旨、紹介された。

(2) 標準委員会の活動について

事務局より、F9SC1-1～1-3に沿って活動方針について説明された。また規約については、委嘱状を送付した際、添付又は標準委員会HPに掲載されている旨紹介していることが説明された。

(3) 役員選出

a. 主査の互選

事務局より F9SC1-4 に沿って主査選任方法が説明された後、出席委員全員による無記名投票が行われた。その結果、阿部委員が主査に選出された。（選任基準 8 票以上；15 名の分科会委員総数の過半数以上）

投票結果；	阿部 委員	得票	11 票
	河西 委員	得票	3 票
	明里 委員	得票	1 票

b. 副主査の指名

阿部主査により、河西委員が副主査に指名された。

c. 幹事の指名

主査、副主査の協議により、明里委員が幹事に指名された。

(4) 人事について

事務局より伊藤 千浩 氏（(財)電力中央研究所）、岩田 順一 氏（内閣府 原子力安全委員会事務局）、久野 悟 氏（日本原子力発電(株)）、佐野 一哉 氏（核燃料サイクル開発機構）、田中 雄司 氏（日本原燃(株)）及び田村 明男 氏（関西電力(株)）が常時参加者への登録を希望されている旨報告があり、全会一致で承認された。

(5) 標準化の進め方について

a. 余裕深度処分の概要

b. 余裕深度処分の制度化に関するこれまでの経緯

西村委員より F9SC1-5 に沿って及び山田委員より F9SC1-6 に沿って説明され、次の議論があった。

- ・廃棄体は角形長尺容器、角形容器及びドラム缶の 3 種類を予定しているか。
- ・日本原燃(株)六ヶ所低レベル埋設センター次期埋設施設の基本設計では、これら 3 種類を想定している。
- ・埋設計画と法令整備との関係を示したスケジュール、廃棄物安全小委員会で検討される内容といった、関係機関の状況を把握するようにしてほしい。

c. 余裕深度処分対象廃棄体の製作方法の標準化について

明里幹事より F9SC1-7 に沿って、事業許可申請に必要な廃棄体の要件を仕様規定として整えていきたい旨説明され、次の議論があった。

- ・F9SC1-7 は専門部会で承認された内容なので、基本的にはこの方針に沿って検討することとしたい。
- ・P.2 の「処分容器の規格」については、構造規格的なものとなるか、それとも性能要求的なものとなるか。また、遮蔽についてはどのように規定するのか。
- ・現行基準における JIS Z 1601 規格品の規定に相当するものを目指している。構造的な要求事項まで詳細に規定することが考えられるが、本体レベルにするか附属書(参考)レベルにするかは検討する必要がある。また、容器の遮蔽はなくしたい。必要であれば追加で設ける等としたい。
- ・廃棄体製作において、ガスの発生を考慮するのか。ガスの発生を考慮して廃棄物量を規定する等の対策も視野に入れるのか。
- ・埋設施設側の設計条件としては必要であるが、標準への記載については別途検討が必要と考える。
- ・P.2 の「(1)廃棄体の要求性能の整理」において、特に容器などは定置までに必要な要求事項、長期的に必要な要求事項について整理してほしい。
- ・「放射能濃度評価」の規格も意識して製作方法を規定した方がよい、との専門部会コメントがあった。
- ・「廃棄体の放射能濃度評価方法」の進捗状況に応じて情報交換することは可能か。
- ・スケジュール的には「放射能濃度評価方法」の検討は「廃棄体製作方法」と同時進行するのではなく、廃棄体の製作方法を考慮して濃度評価方法検討に反映することとなると思う。
- ・2005 年 7 月頃中間報告であれば、1 ヶ月に 1 回程度分科会を開催する必要があるか。
- ・国側の進捗状況等を考慮して、当面は 2 ヶ月に 1 回程度でよいと考えられる。

6. 今後の予定

次回分科会を，2005年2月22日(火)13:30から開催することとした。

以上